

こうざ えもんつうしん 平成 25年 11月 24日
講左衛門通信 第11号

発行 天台宗忍草山東円寺
〒401-0511
南都留郡忍野村忍草38
☎ 0555-84-4114

『講左衛門さん、今日は、東円寺と忍草浅間神社の関係について、教えてくれるでまっすん。』
『クニマッスンは、忍草浅間神社の昔の名前を知っておるかのう。忍草朝日浅間宮と言ったんじゃよ。東円寺には、忍草朝日浅間宮別当東円寺と書かれた古文書がたくさん残されておる。現在は、神社と寺は別団体じゃが、昔は、一緒の団体だったんじゃ。』

『神社は神様、お寺は仏様でまっすん。一緒の団体とは、どういうことでまっすん??』
『神仏分離以前は、お寺のお坊さんが神社をお守りしていたんじゃよ。特に天台宗は、その土地にお寺を建立する時境内に、氏神様をお祀りしたんじゃ。それが、神社なんじゃよ。比叡山の麓には、日枝神社があるじゃろ。そのような時代背景を知ると、神社をお寺のお坊さんがお守りするのは、ごく自然なことだったんじゃ。しかし、明治時代、法律が変わってな、寺は寺、神社は神社になったんじゃ。明治から140年以上の歳月が流れ、多くの人々は、神仏習合の時代を忘れてしまったんじゃな。別当とは、神社を管理しているお寺という意味なんじゃよ。』

『現在の忍草浅間神社は、昔は、東円寺で管理していたから、古文書があるでまっすん。』
『忍野八海が誕生したのは江戸時代だから、忍草浅間神社の名称は、忍草朝日浅間宮の名で古文書が残っておるんじゃよ。また、神社の管理についての古文書も残っておってな、寛永寺の許可なく、葉一枚、木一本たりとも動かしてはいけないと書いてあるんじゃよ。昔は、厳しかったんじゃな。』

『講左衛門さん、東円寺の庫裏は、富士講信者の寄付で建てられたと聞いたでまっすん。』
『そうなんじゃよ。忍野八海を造る時に友右衛門さんは、大我講という講中を造ったんじゃが、当初は、山梨県内だけの講中だったんじゃ。しかし、忍野八海が世に知られるようになると、関東一円に大我講の講中が増えたんじゃ。東円寺の庫裏を造った時の収支決算書や、寄付者名簿を見ると、埼玉県や東京の講中の名前もあったんじゃよ。しかし、大我講中になるためには、資格が必要だったんじゃ。』

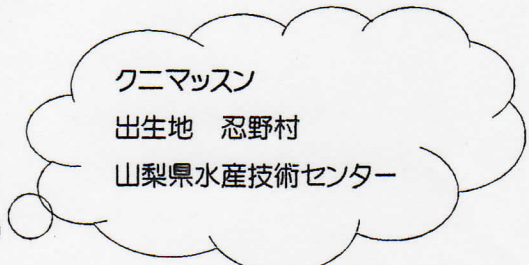
『どのような資格が必要でまっすん?』

『忍野八海が完成した時、寛永寺から書状が届いてな、お褒めの言葉をいただいたんじゃよ。その中に、講中についての規則も記してあったんじゃ。現在でいうと、国に税金を納めていない者つまり自作農以外は、講中になってはいけないと記してあったんじゃ。』

『昔の方が厳しいでまっすん。次回は、何を教えてくれるでまっすん。』

『寛永寺からいくつも書状が届いておるんじゃが、詳しい話をするかのう。』

『楽しみでまっすん。』



クニマッスン
出生地 忍野村
山梨県水産技術センター

ふじのだいごこうざえもん
富士大我講左衛門 年齢不詳
職業 大我講の先達
(先達とは富士山案内責任者)



『講左衛門通信』は、
第2・第4日曜日に発行予定